

ころばん体操出前講座活動報告(平成29年6月21日)

【講話】

- 1.「いつまでも自宅で暮らすために」地域包括支援センター保健師 久保小百合
- 2.「がんばりすぎない介護を応援します」
在宅医療・介護連携推進事業コーディネーター 南新敦子

参加者の声

平成29年6月15日(木)平木場公民館(参加者6名)

施設の入れば、お金もかかるし自分の家で暮らしていけたらそれがいいのよねえ...
「私は、これからの事を色々考えていますよ。」

Q:昔は往診の先生をよく家で頼んでいたけど、今はそんな先生がいるのかな...?

A:いちき串木野市でも往診や訪問の診療してくれる医院や、病院があります。

市来は2箇所の医院の先生が訪問診療を行っています。

まだ介護のサービスが無い頃、介護の仕事をしていたが、今は介護のサービスが色々できているので助かりますよね。

(マイライフノートを開いて記載する項目を一緒に見ながら、それぞれの思いを聞かせて頂いたり、生活の事を聞いたりとお茶も頂きゆつくりとお話しを伺えた機会となりました。)

平成29年6月19日(月)平向公民館(参加者18名)

“できれば、自宅でずっと暮らしたい。”の質問に、挙手した方は8割強でした。

“自宅で死にたい”では、5割の方の挙手がありました。

「訪問看護は保健が効くんですか...?」「難病にはどんな病気があるのか教えてほしい。」

病院で先生が2ヶ月入院と云われても自宅に早く帰りたいから退院して自宅で薬やリハビリを受けたいとか、相談してもいいんですか...?

妻がリハビリに通院していますが、歩行が不安定になってきたので自宅に手すりをつけたいが、誰に相談していいか教えて欲しい。

(高齢者クラブという事で75歳から90歳代の皆さんの参加をしていただきました。とても熱心に聞いて頂き、活発な質問もありました。最後に「こんな話をまた来てして下さい。」という声も頂きました。)



(平木場公民館)



(平向公民館)